



2-1 龍岩神社

町道に面した鳥居をくぐり、樹木のトンネルの中を一直線に続く急傾斜の石段を休み休み44段登りきると、なだらかな参道の奥に龍岩神社が八色石集落を見守るように山の頂ぎに建っています。御神体である巨石は、高さ5.15m、横幅5.75m、周囲18.78mで、その形が蛇の頭に似ていることから龍岩の名で呼ばれ、祭神(八束水臣津命)を祭り、水の神として親しく崇拝されています。



素敵は手水の石



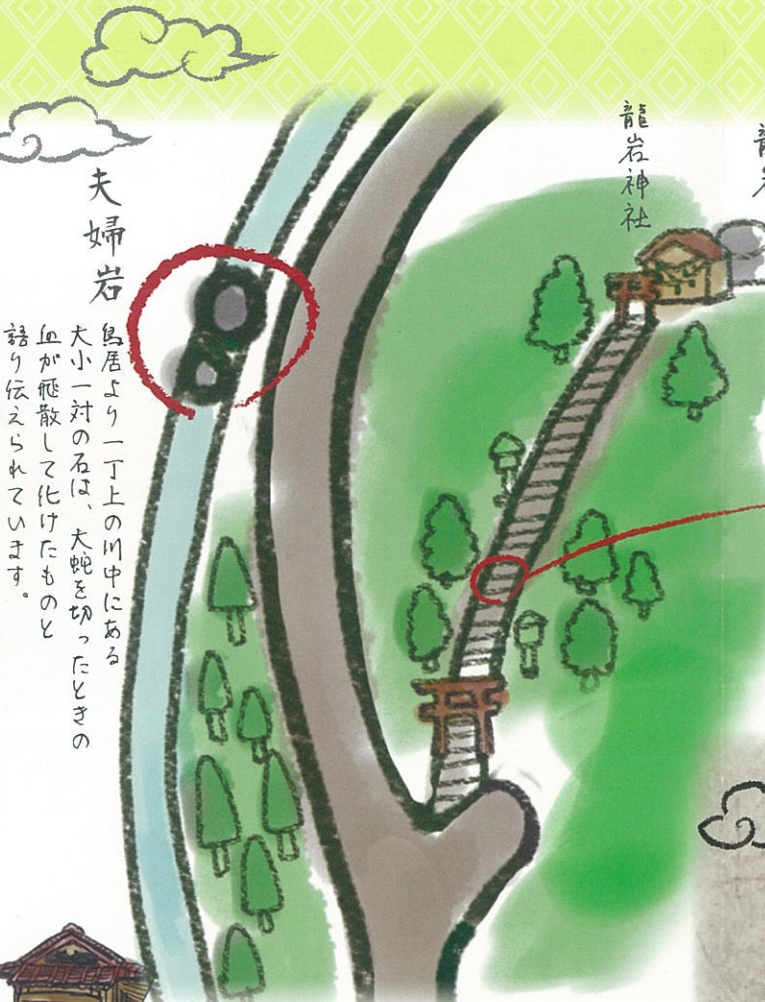
ご神体の龍岩
横から見ると大蛇の頭のように



龍岩

階段の3分の1の辺りで振り返ってみてください。八色石集落が一望できます！

龍岩神社



夫婦岩

鳥居より一丁上の川中にある大小一対の石は、大蛇を切ったときの血が飛散して化けたものと語り伝えられています。



龍岩伝説

この龍岩の由緒には二つの説があり、一つは「龍岩権現宮本記」という古記録に、素戔鳴尊の八岐大蛇退治と関係をもたせ、「大蛇の頭の一つが飛んで来て石に化わり、八色に輝くことから八色石材という名になった」というものと、もう一つは「石見海底能伊久里」の中に「八束水臣津野命が天下った時、ひとりの姫神が『八色石のために石見の国の山は枯れ、川は干上がり、蛇と化して民を悩ませている』と告げ、命がこれを七ぼそうと八色石を二段に斬ると、その首は飛んで龍岩となり、その尾は美濃郡の角石となった」というものがあります。

「龍岩権現宮本記」には、「その石の上に水あり、これを鳥井という。この水大寒にも凍らず、大雨にも増えず、汲めども尽きず。この鳥井の水減する時は、大早草木皆枯るる極の年なり。ここに雨乞いする時は、晴天たちまちにかき曇り、大雨降ずと言う事なき不思議な神水なり(口語訳)」と述べられています。

龍岩神社のお祭り

4月3日 春の例大祭

龍岩の神徳を仰ぎ、氏子・崇敬者の家内安全穀豊穰を祈ります。祭りはろうそくの灯りの中で行われ、昔は宮司はご神体である龍岩に御酒を注いでいました。

祭りは現在も受け継がれ、行われています。

10月第3土曜日 秋祭り

11月23日 新嘗祭(収穫祭)

12月31日 除夜祭・元旦祭

